

2020. 7. 27 <計3枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位
草津市政記者クラブ加盟社 各位
文部科学記者会加盟社 各位

立命館大学広報課

～食研究のイノベーション 未来を拓く～

日本初 マネジメントを中心に「食」を複合的に研究する大学院が誕生

2021年4月「食マネジメント研究科」を開設

立命館大学は、このたび、食マネジメント研究科設置届出書を文部科学大臣に提出いたしました。2021年4月、「食マネジメント研究科」をびわこ・くさつキャンパス(滋賀県草津市)に開設しますので、お知らせいたします。

昨今、食はそれぞれの国・地域の文化や経済、人々の健康と生命において重要な位置を占めており、グローバル化の進展にともない、国際的な関心事象にもなっています。本学は、2018年4月、「食」をマネジメント・カルチャー・テクノロジーの3領域から学ぶ、「食マネジメント学部」をびわこ・くさつキャンパスに開設しました。食マネジメント研究科は、同学部を基礎とし、マネジメントを中心に食を複合的に研究する日本初の大学院として、来春誕生します。

本研究科は、食に関わる社会的重点課題として、①食に対する経営・イノベーション、②食を通じた多文化共生の地域社会づくり、③食を通じた福祉・健康コーディネーション、の3つを掲げています。これらの課題に対しては、経済学・経営学分野の学問に、食の歴史学、食文化論、食の地理学、健康マネジメント論などの知見を取り込み、課題に則し複合的に研究を行うことで、解決策を導き出す必要があります。

本研究科は、食をめぐる経済社会の仕組みや人々の経済行動を理解し、食の経済システムを効率的に持続させ、社会全体の公益に寄与できる人材の育成を目指します。また、教育・研究活動を通じて、食をとりまく研究のさらなる発展と豊富化をはかり、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

<食マネジメント研究科について>

研究科名称：食マネジメント研究科

開設時期：2021年4月

入学定員：博士課程前期課程 20名／博士課程後期課程 3名

研究科の特徴：

- ・マネジメントを中心に「食」を複合的に研究する日本で初めての大学院
- ・食関連の高度マネジメント人材の育成
- ・理論と実践力を兼ね備えた教育・研究課程
- ・食に関わる3つの重点課題への挑戦 ※詳細は別紙をご覧ください。

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学広報課 担当:名和 TEL. 075-813-8300 FAX. 075-813-8147

参考資料

＜食マネジメント研究科概要＞

研究科名称：食マネジメント研究科 Graduate School of Gastronomy Management

専攻名称：食マネジメント専攻 Major in Gastronomy Management

開設時期：2021年4月

場 所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス

入学定員：博士課程前期課程(2年制) 20名

博士課程後期課程(3年制) 3名

専任教員数：26名

授業料：博士課程前期課程 80.1万円(年間)

博士課程後期課程 50万円(年間)

学 位：修士(食マネジメント) Master of Gastronomy Management

博士(食マネジメント) Doctor of Philosophy in Gastronomy Management



＜人材育成目的＞

●研究科共通

食マネジメント研究科は、経済学・経営学の専門的知見を用いて、食に関わる経済活動を研究し、実践的なマネジメント能力を備えた高度専門職業人および研究者の育成を目的としています。

●博士課程前期課程

食に関わる多様な視点を、経済学・経営学を軸として社会実装に導入し、食に関わる経済活動をめぐる諸課題の解決へ向けて応用することができる高度専門職業人を育成します。

●博士課程後期課程

食マネジメント研究の発展に寄与する研究活動を行い、ここで培ったマネジメント能力を用いて研究成果を社会に還元するとともに、研究倫理を有しつつ学術的手法を用いることができる研究者を育成します。

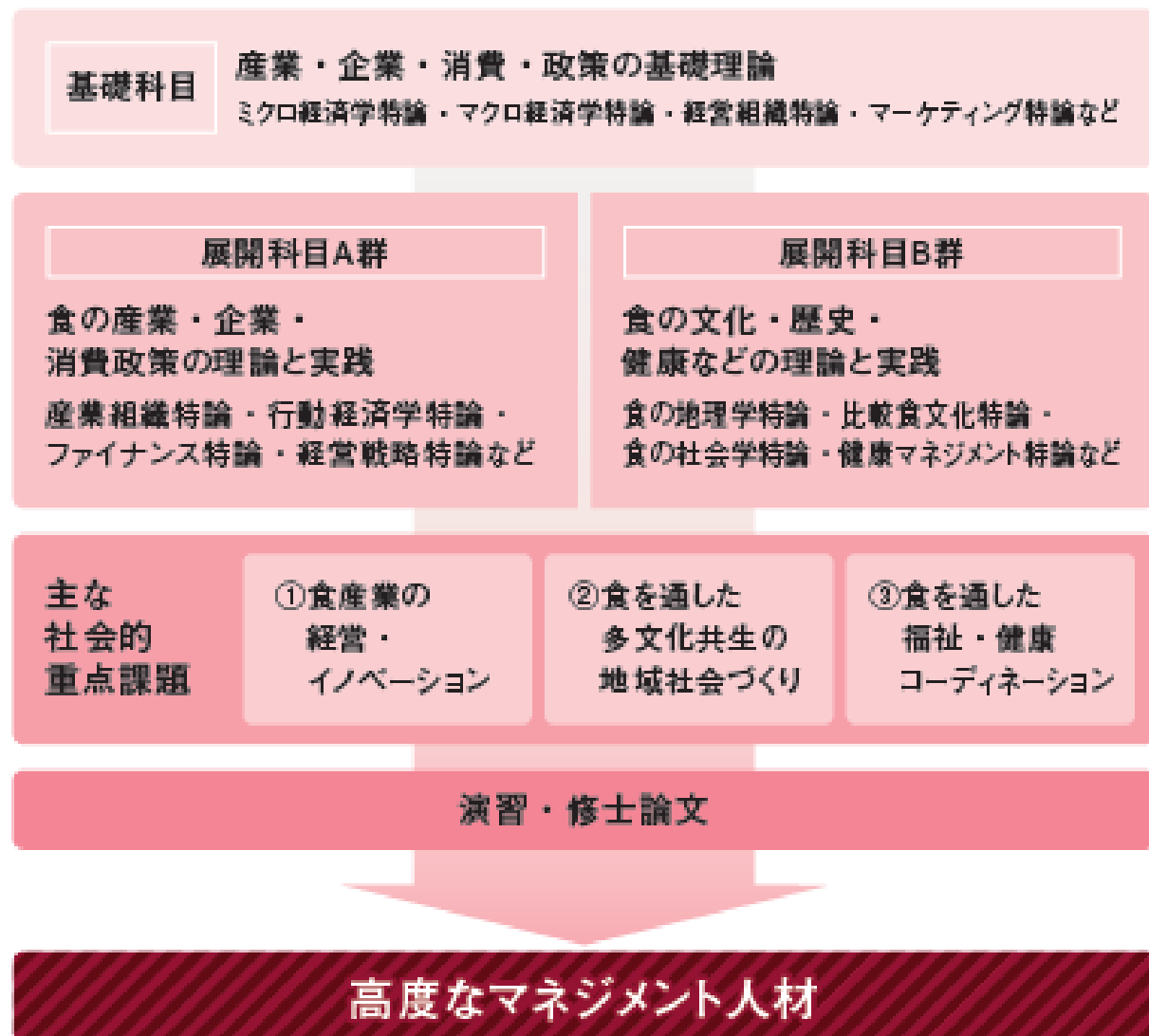
＜想定される修了後の進路＞

博士課程前期課程：食品関連企業(製造、商社、小売、外食中食)、医療福祉、農業、情報産業における開発・研究職、プロジェクトマネジャー、経営者、スーパーバイザー、および行政における食関連政策の企画立案

博士課程後期課程：企業の研究職、アカデミア研究者

<食マネジメント研究科構想>

博士課程前期課程



博士課程後期課程

博士課程後期課程においては、マネジメント能力と食に係る知識を複合的に身につけるために、共通科目として特別講義I～IIIを配置する。また、実践力を涵養するために、実践科目として研究実践I・IIをおく。研究演習として、特別研究I～VIを配置する。